

教育研究活動報告書

ふりがな 氏名	はなだ としろう 花田 利郎	所属・職名	健康福祉学部社会福祉学科・准教授
専門領域	臨床心理学	学位称号	教育学修士, 1998(平10)
最終学歴	1999(平10)九州大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学		
資格・免許等	財団法人日本臨床心理士資格認定協会認定 臨床心理士資格 第6444号 日本リハビリテーション心理学会認定 心理リハビリテーション スーパーバイザー資格 第205号 日本リハビリテーション心理学会認定 心理リハビリテーション トレーナー資格 第1060号		
教育上の能力に関する事項			
担当科目	《学部》 心理学Ⅰ, 心理学Ⅱ, 心理学研究法Ⅰ, 心理学研究法Ⅱ, 心理検査法Ⅰ, 心理検査法Ⅱ, 心理学実験演習Ⅱ, 身体アプローチと臨床動作法, 肢体不自由教育の理論と実際 社会福祉学演習Ⅱ, 卒業論文指導 《大学院》 臨床心理査定演習Ⅰ, 臨床心理査定演習Ⅱ, 臨床心理実習		
教育方法の実践例 教材の開発 教育改善活動等	<p>1. 教育方法の実践例</p> <p>(1) 「臨床心理実習」 (大学院修士2年: 臨床心理コース) 「障害児教室」の実施を通じた臨床実践学習: 1997(平9)年度～現在 大学周辺地域在住の障害児・者およびその家族を大学に招き、年6～7回「障害児教室」を実施した。院生が、障害児・者との基本的なかかわり方を習得し、専門的な援助法である臨床動作法を体験的に学習することができ、さらに障害児とその家族との交流を深め、臨床技能の向上を図った。</p> <p>(2) 「社会福祉学演習Ⅱ」 (社会福祉学科3年) 体験型学習である構成的EGの授業への導入: 2004(平16)年度～現在 体験型学習として、構成的エンカウンター・グループのエクササイズを導入した。構成的エンカウンター・グループの技法を学ぶとともに、実際、学生自身の体験として自己理解や他者理解が進み、相互交流が活発になった。</p> <p>(3) 「心理学研究法Ⅰ」 (社会福祉学科2年) 授業の双方向性を高めるためのEメールの活用: 2003(平15)年度～現在 授業を通じて考えたこと等をレポートとしてEメールを利用して提出させ、受講者全員のレポートを次回の授業において配布した。授業の双方向性が高まるとともに、学生の意欲、関心、表現能力を高めることを可能とする教育方法であった。</p> <p>(4) 「心理学Ⅰ・心理学Ⅱ」 (社会福祉学科1年) 聴覚障害のある学生に対応するPP、講義シートの導入: 2003(平15)年度～現在 心理学Ⅰ・心理学Ⅱにおいて、学生の理解を深めるために視聴覚的な資料を提示したり、学生参加型の授業を実践したりするためにパワーポイントを、聴覚障害のある学生への工夫を加えて導入している。また、導入にあたり、学生の理解を深めるための「考えてみよう！」や学生間のノート・テイキング技術の差を埋めるための講義シートも作成し、導入した。</p> <p>(5) 「社会福祉援助技術演習Ⅰ」 (社会福祉学科3年) 対人援助技術獲得のためのビデオシステムの活用: 2005(平成17)年～2006(平成18)年度 ロールプレイを行う際にビデオシステムを活用し、ソーシャルワーカーとしてのトレーニングをより客観的に行うことができるようにした。</p> <p>2. 教育改善活動</p> <p>(1) 学科内FDの企画・運営: 2008(平20)年3月 聴覚障害のある学生への対応を念頭に置いて、プレゼンテーションソフトのパワーポイントによる講義資料を作成に関する報告及び検討会を企画運営した。</p>		
職務上の実績に関する事項			

研究業績等に関する事項

《平成19年度～平成23年度》

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	発行又は 発表の年月
《学術論文》 1. バウムテストの教育方法に関する検討 2. Eメールを活用した心理学研究法の教育方法に関する検討	単著 単著	西九州大学健康福祉学部 紀要 第41号 西九州大学健康福祉学部 紀要 第41号	2011(平 23) 年 3月 2011(平 23) 年 3月
研究助成等			
学会及び社会における活動等			
日本心理臨床学会 日本教育心理学会 日本特殊教育学会 日本リハビリテーション心理学会 日本催眠医学心理学会			